

## 【第4回会議資料】目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見

### 3 地域コミュニティの拠点形成

#### 3-1 学校と地域の連携・協働

##### 【整備の視点】

- ・地域との接点となる空間の整備
- ・学校参加促進・利用しやすさへの配慮
- ・地域特性を生かした教育

#### 3-2 地域の生涯学習のための機能整備

##### 【整備の視点】

- ・地域の生涯学習のための機能整備

##### 【鈴木会長】

- ・町民が自由に入出りできる地域活動室を設置するなど、コミュニティスクールとしての見える化を行う。
- ・セキュリティ確保に町民の目を活かす。
- ・屋外プールを廃止する。

##### 【鈴木副会長】

- ・校舎は可能な限りの高層階とし、動線分離とフロアごとに機能を分離。
- ・例：1階 地域との共同利用設備（図書館やコミュニティスペースなど） 2階、教員スペース 3階 音楽室、美術室 特別教室 など 4階 多目的フロア など 5, 6, 7階 普通教室
- ・動線分離ができれば、体育館等は授業を優先するが、空いていれば、地域開放も可能となる。
- ・町内の図書館をオンラインで接続し、例えば午前中にタブレット端末から貸し出し予約希望をすれば、下校時まで希望を出した学校に届いて受け取れるような仕組みを作る。無駄な蔵書を減らせる可能性が出てくるし、タブレットの有効活用にもなる。

##### 【武者委員】

- ・整備内容例の「地域との接点となる空間の整備」についてですが（学校施設の目指すべき姿の「学校と地域との連携・協働」の全てに共通して言えますが）、学校側から施設設備や時間の開放に力点があるように感じました。
- ・そうだとすると、近年言われている「開かれた学校」においては、学校（公教育を実現するという一つの価値をもつコミュニティ）と地域（住民の様々な学習活動を実現する多様な価値を認めるコミュニティ）とは対等でありパートナーの関係になっています。パートナーといっても、これは予定調和で成立するものではないので、

話し合いの場（調整の場。地域学校協働本部のようなもの）を中学校区＝豊山町区域におくか、あるいは中学校で開放できる施設設備と時間帯を明示して提供する（何かトラブルが発生した場合は調整の場・責任主体を定めておく）か、が必要のように思います。

##### 【風岡委員】

- ・考え方として、教室、職員室などの学校教育のコアとなるスペースと図書館、体育館、プール、音楽室、家庭科室など地域開放が可能なスペースは分けて考えて、複合化や多機能化による住民のための施設としての活用を前提としたプランを考えても良いのでは。
- ・その際、施設の運用や誰が管理するのかを整理しながら、施設計画を考える必要がある。学校教育のスペースと地域の生涯学習スペースとでは管理のあり方についても分けて考えても良いのでは。（BOT方式など）

##### 【前田委員】

地域住民が「おらが学校」と誇りに思う、自慢の学校

##### ①豊山町の歴史と地域の特色を表現した施設

- ・コミュニティ広場（芝生）として➡中庭にベンチ
- ・まちづくり（生涯学習の視点から）➡地域住民の活用（家庭科室での料理教室・図書室での読書会・音楽教室での発表・体育館でのスポーツ指導者講習としての活用など）

##### ②学校教育と生涯学習のすみわけ

- ・開放日における学校施設管理の問題➡入り口を分ける、鍵

##### ③公共施設との複合化・共用化を図るための留意点

- ・生徒等の安全（池田小学校＝セキュリティ）
- ・教育環境への十分な配慮➡学校教育優先利用が原則防災拠点

##### 【池山委員】

- ・地域が育む中学校として、学内に町民のためのギャラリーやミニホール整備。これはソフト面も大事であり、そこで地域住民との交流が生まれる。生徒のための施設でもある。
- ・地域開放玄関と生徒昇降口を峻別したい。視察で気が付いたが、現在の中学校は正門も分かりづらく、しかも西門・北門もある。これでは防犯上もよくない。堂々とした正門をくぐり、生徒昇降口へ向かうようにしたい。正門とは別に、建物と一体化した地域開放玄関を造る（常時開放しない）。
- ・15900人お互い共助の町とするためには、福祉施策と教育の縦横斜めの複合化が必要。例えばジュニアボランティアセンターやジュニア赤十字奉仕団を育成するためのボランティアルーム、そこへは、社協にある点字室コーナーを一部移設し、生徒との触れ合いの機会を高める。

- ・ 校歌の「世界を友と」飛び立たん、とある。グローバルなイメージが校内いたるところにあるといい（モニュメントやグラント郡との交流紹介等）。
- ・ 1年生のリトルワールド遠足での感想や旅行記が展示してあったが、非常によい。

#### 【篠田委員】

- ・ 明確なセキュリティーラインを設定し、地域の活動スペースを設けるとよいと考える。
- ・ 歴史を刻む記念碑の設置を行う必要があると考える。
- ・ 中学校で取り扱う種目、部活動、社会体育で行われている種目に十分に対応できる体育館、武道場、プール、テニスコートであることが必要であると考え。

#### 【水野委員】

- ・ 常に地域の見守りも必要であるが、学校と地域との見守り体系を明確にすることが求められる。

#### 【小川委員】

- ・ 地域コミュニティの利用が可能な区域を、校内に設け、積極的に利用を促す。ただし、セキュリティーの視点から、校内への入り口を完全に分け、通常は生徒たちとの接触を避ける。
- ・ 地域の方と同じ課題に対して、話し合える授業を設ける。
- ・ 駐車場の常時解放はしない。
- ・ 部活動と、学校開放で行われているスポーツとの連携を図る。
- ・ 図書室を、社教センター図書室とリンクさせ、より充実した書籍の陳列を行い、生徒たちに書籍への関心を持たせる。

## 4 安全・安心な施設環境の確保

### 4-1 災害に対応した学校

#### 【整備の視点】

- ・地震などの災害に強い学校
- ・町指定緊急避難場所としての万全な災害対策

### 4-2 日常の安全性確保

#### 【整備の視点】

- ・教職員が見守りやすい環境
- ・防犯対策による安心な学校
- ・日常の事故を防止
- ・コロナ禍から将来へ

#### 【鈴木会長】

- ・災害拠点としての学校施設と位置付ける。
- ・校内に教師コーナーを分散設置の必要性については検討必要。

#### 【鈴木副会長】

- ・耐震構造を基本とし、いたずらに免震化しない。地域の地盤特性、固有周期など、きちんと対案を含めて検討して決定。施設の維持管理費用にも直結する。
- ・避難所となる際は体育館、および地域との共同利用スペースに限定し、普段から動線分離の意識を持っておき、発災時およびその後の学校教育活動の妨げにならないようにしておく。

#### 【武者委員】

- ・整備内容例の「感染症対策」に関わって、ソーシャルディスタンスを担保するため、また ICT (タブレット等の利用や調べ学習などのグループワーク) 活用のため、従来よりも教室の面積を広くするとともに、机を大きくすることが、この際必要と考えます。

#### 【風岡委員】

- ・避難所として機能を果たす視点から、最低限の生活に必須の設備や備品の整備に加え、更衣室・シャワー室、トイレの設置といったプライバシーの確保といった視点を加える必要がある。

#### 【池山委員】(「1-4 働きやすい執務環境」再掲)

- ・職員室について、職員室という言葉を使わない。職員と生徒という暗黙の壁を前提としているこの言葉がある限り、訪れやすく、相談しやすいには決してならない。教務センターとか、他に何かいいアイデアを考えて欲しい。
- ・机配置も一般的な田の字型の横断的な配置ではなく、机のないフリースペースを考えてもいい。先生がタブレットに習熟さえすれば、机がなくても、いつでもどこで

でも仕事ができる。GIGAスクール構想は教え方のみならず先生の執務環境でも整えるべき。ファイルは電子化。教務スペースと校務スペースを峻別など。

#### 【篠田委員】

- ・耐震性に優れた校舎の建設を望む。
- ・経年劣化による雨漏りに強い校舎の建設を望む。
- ・町指定緊急避難場所としての必要な設備・備品の整備を望む。
- ・職員室に近接して管理諸室を集約し、センター機能を果たすようにするとよいと考える。
- ・各学年には、学習室(学年室)を配置し、各階でのセンター機能を果たせるとよいと考える。
- ・広い階段・廊下の設置が必要であると考え。
- ・地域の活動スペースとの明確なセキュリティーラインを設定し、セキュリティー区画を確定するとよいと考える。
- ・各所に防犯カメラを設置し、安全対策を講ずることができるようになるとよいと考える。
- ・感染症対策として、手洗い場は、密にならず、多く設置することが望ましいと考える。
- ・各教室にも必要に応じてアクリルパネルの設置が必要であると考え。

#### 【水野委員】

- ・防犯整備の強化対策は？

#### 【小川委員】

- ・町の中心的避難所としての役割を強化する。(防災倉庫の充実、町民避難訓練における、学校避難訓練との連携。)
- ・わかりやすい災害時使用設備の設置等。
- ・防犯カメラの増設、PTAパトロールの強化等。
- ・全箇所自動水栓への切換え
- ・校内全体の換気システム、または風の流れを考慮した窓の設置。

## 5 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営

### 5-1 計画的な整備、敷地利用の効率化

#### 【整備の視点】

- ・施設、敷地の効率化
- ・学校運営を極力支障無く継続しながらの施設整備
- ・市街化調整区域の扱いや航空産業等民間施設動向を踏まえた人口動向に柔軟に対応するフレキシブル性の確保

### 5-2 維持管理に配慮した施設計画

#### 【整備の視点】

- ・将来にわたる維持管理・更新に配慮した施設

#### 【鈴木会長】

- ・工事期間中の学校運営、安全確保の点では移転が望ましい。ただし跡地利用を同時に計画すべき。
- ・現地建て替えの場合は、一般的に計画条件が厳しくなる。仮設校舎を建てない前提の場合、さらに厳しくなる。
- ・将来のリノベーションを念頭に置くならば、木造またはS造が良い。
- ・地域住民による学校サポートを組織化し、メンテナンスなどの協力を得る。
- ・計画・設計段階において関係者参画の検討体制を整え、開校後の運営に備える。

#### 【鈴木副会長】

- ・20～25年ごとに、ある程度の大規模改修を見越した予算立てと維持管理費を考えて計画を策定。
- ・ネーミングライツ、クラウドファンディング、PFIなどを検討。ただし、PFIの場合、丸投げはNG。役場がきちんと参画しイニシアチブをとり、部分的に任せなどする必要あり。

#### 【武者委員】

- ・政府・与党において、小学校の全学年35人学級に続いて、中学校の35人学級の導入が前向きに検討されています。将来35人学級編制になっても対応できる教室数の確保が望まれます。余裕教室は生徒の調べ学習や発表授業にも有効に使用することができます。

#### 【風岡委員】

- ・50年後の学校教育の内容や方法が、現在のような教室型であるかどうかの先は読みにくいことがある。50年そのまま使う校舎という発想ではなく、改修・改築にフレキシブルに対応できる施設という発想も必要ではと考える。

#### 【篠田委員】

- ・生徒・教職員の安全・安心に十分に配慮した整備・運営を望む。

- ・学校運営を極力支障なく継続しながらの施設整備が進むことを望む。
- ・生徒の急増・急減に対応できる余裕教室の確保ができるとよいと考える。
- ・メンテナンスしやすい設備を兼ね備えた校舎づくりを望む。

#### 【水野委員】

- ・中学校の建て替え、移転については十分な意見収集時間を。
- ・小中一貫教育を希望するが、中学校改修、移転を最優先とするなら、小学校の統廃合を十分に検討し、豊山小学校の改修をお願いする。
- ・意見聴取の実施については十分な検討を。
- ・改修・移転については幅広く、住民アンケートを実施してください。

#### 【小川委員】

- ・プールは、町内全校を一か所に統合し、維持管理費の削減を試みる。
- ・建設、移転等の負担を、当該年度の生徒だけに負担させない。
- ・基本、建物を含む設備に関しては、できるだけ維持管理の負担が少ない様式を検討する。